

取組事例

2 県関係の事例

事業名 [平成24年度 子ども読書ボランティアリーダー養成講座（上越地区）]

目的 子どもの読書活動を推進するため、既に活動している子ども読書ボランティアの更なる質の向上を目指して講座等を開催し、地域におけるリーダーの育成とネットワークの構築を図る。

実施主体 主催：新潟県教育委員会 主管：上越教育事務所社会教育課

参加対象 読み聞かせや学校図書館支援など、子ども読書活動へボランティアとして参加した経験のある方（子どもたちの前で10回以上読み聞かせしたことがある。または2年以上活動している）

参加者数 延べ141名

回数 5回 **日数** 3日 **時間** 10時間

場所 上越市直江津学びの交流館 多目的ホール

内容

回	期日・時間	テーマ	講師
1	10月1日（月） 10:00～12:00	[講義] 絵本のたのしさを伝えるためには	新潟大学非常勤講師 錦 恵美子 様（新潟市）
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちに絵本の楽しさを伝えるために、講師が推薦する本を紹介しながら読書ボランティアの在り方についての講義を実施した。 年齢にとらわれず、絵本を楽しみ、大人自身が喜んで読んであげることが一番大切である。感動を強制せずに共有することが重要である。 <p>[39名]</p>	
2	10月1日（月） 13:00～15:00	[講義と演習] 自分の足元を見つめてみよう	センス・オブ・ワンダー主宰 中山佳奈恵 様（新潟市）
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> 選書とプログラムづくりの重要性について講義をした後、演習について説明があり、グループ毎に情報交換を行った。 自分のかかえている問題を人に伝え、話し合うことで解決や改善への糸口がみえることがあるので、この機会を大切にしてほしい。絵本は大きな役割をもっているだけに、選書に対する技能をこの機会に演習を通じて身に付けてほしい。 <p>[28名]</p>	
3・4	10月15日（月） 10:00～12:00 13:00～15:00	[演習] 絵本の多様性を楽しみながらブックセンスを磨こう	センス・オブ・ワンダー主宰 中山佳奈恵 様（新潟市）
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの立場や視点で選書ができるセンスの向上を目指し、参加者が選んだ本の内容と読み聞かせの技術も合わせて検討し、講師から助言を得た。 過度な演出は避けて、絵本が本来もつ内容を伝える必要があるため、本の内容（ストーリー、絵、文など）を吟味する。「絵本の世界は一つ」「一生ものの何十年も愛されるものを選ぶ」という方向で選書すると間違いがない。[第3回：27名] [第4回：25名] 	
5	10月22日（月） 10:00～12:00	[演習] 今後の活動に向けて	センス・オブ・ワンダー主宰 中山佳奈恵 様（新潟市）
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> 演習のまとめとして、選書のあり方について、参会者の振り返りの後、講師から指導があった。 独りよがりな選書や読み方にならないように、様々な視点から考えられる読み手となって絵本の世界を広げてほしい。 <p>[22名]</p>	

成果 ・豊かな本の世界を伝えていくためのボランティアの在り方と、選書や読み聞かせの技術について講義や演習で具体的に学ぶことができた。参加者は子ども読書活動推進のための確かな視点を心得、意欲を高めることができた。

課題 ・リーダー養成講座は開始以来5年以上が経つ。ボランティアの子ども読書活動に対する意識と読み聞かせの技術は確実に向上しているが、ボランティアが十分に活用されているとは言えない。活用促進について園・校や関係機関に呼びかける。

問合せ先 新潟県教育庁上越教育事務所社会教育課（担当：七澤伸一） TEL:025-526-9377

事業名

〔平成24年度 子ども読書ボランティアリーダー養成講座（中越地区）〕

目的

子どもの読書活動を推進するため、既に活動している子ども読書ボランティアの更なる資質の向上を目指して講座等を開催し、地域におけるリーダーの育成とネットワークの構築を図る。

実施主体

新潟県教育庁生涯学習推進課・中越教育事務所社会教育課

参加対象

読み聞かせや学校図書館支援など、子ども読書活動にボランティアとして参加した経験のある方

参加者数

延べ133名

回数

4回

日数

4日

時間

10時間
(2時間2回、3時間2回)

場所

魚沼市中央公民館 中ホール

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	9月6日(木) 13:30~15:30	絵本の楽しさを伝えるには	新潟大学非常勤講師 錦 恵美子 様
	内容・方法	・絵本や読み聞かせは子どもの心の成長をうながすことや、読み聞かせは読み手にとっても成長の機会であること、絵本の楽しさを伝える選書の仕方や絵の見せ方、繰り返し読むことの大切さなどの講義 [55名]	
2	9月25日(木) 13:30~16:30	ボイストレーニング①「読み聞かせの声の役割を考える」 読み聞かせ①「声の出る仕組みを頭に入れての読み聞かせ」 グループワーク①「自己紹介・活動の紹介」～参加者の交流を図りましょう～	フリーアナウンサー 平井 葉子 様
	内容・方法	・「自然な声」「自然な音」の大切さと読み聞かせでの声の役割と出し方の講義 ・小グループによる話し合いを通しての交流 [29名]	
3	10月25日(木) 13:30~15:30	ボイストレーニング②「生の声で聞く音の効果を知る」 読み聞かせ②「生の声を生かす読み聞かせ」	フリーアナウンサー 平井 葉子 様
	内容・方法	・生の声で語りかけることで伝わる心や感性があることの講義 ・グループに分かれての読み聞かせと意見交換 [24名]	
4	11月22日(木) 13:30~16:30	ボイストレーニング③「声の効果の大きさを知る」 読み聞かせ③「聞くことの楽しさを伝える読み聞かせ」 グループワーク②「子どものための読書活動の推進」 ～子どもたちに読書楽しさを伝えるためには～	フリーアナウンサー 平井 葉子 様
	内容・方法	・聞き手一人一人の想像を広げる上での声の効果と読み手と聞き手との関係等の講義 ・グループに分かれての読み聞かせと意見交換 ・課題と今後の取組についてKJ法を取り入れた話し合い [25名]	

成果

会場を魚沼市にしたことにより、これまで参加が無かった団体や地域から多くの参加者があった。また、魚沼市と連携した取組ができた。

第1回目の講義は、講演会として参加者を募ったこともあり、講座受講者以外からも参加してもらい、囁や読み聞かせが子どもの心に与える効果について知ってもらう機会となった。第2～4回の講座は、自分の「生の声・音」の大切さを実感してもらい、受講者の今後の取組の意欲につながった。

グループワークの時間が短かったことは反省点であるが、交流の機会となった。

課題

受講者の取組を市町村に情報提供し、受講者やボランティア団体が、市町村と連携して取組を進められるような支援が必要である。

問合せ先

新潟県教育庁中越教育事務所社会教育課（担当：島田敏夫）TEL0258(38)2652

事業名

〔平成24年度 子ども読書ボランティアリーダー養成講座（下越地区）〕

目的

子どもの読書活動を推進するため、既に活動している子ども読書ボランティアの更なる質の向上を目指して講座等を開催し、地域におけるリーダーの育成とネットワークの構築を図る。

実施主体

新潟県教育庁生涯学習推進課・下越教育事務所社会教育課

参加対象

読み聞かせ等の子ども読書ボランティア活動に参加した経験のある方

参加者数

延べ183名

回数

5回

日数

5日

時間

10時間

場所

新発田市立図書館 会議室

内容

回	期日・時間	テーマ	講師
1	10月4日(木) 10:00~12:00	○「絵本のたのしさを伝えるためには」	新潟大学教育学部 非常勤講師 錦 恵美子 様
	内容 ・ 語彙力の低い若者たちへ ・ 読書という体験 方法 ・ 年齢によるその時々のかかわり		<51名>
2	10月11日(木) 10:00~12:00	○「読む技術・聞かせる技術Ⅰ」 ～読み聞かせでの声の役割と音の効果～	フリーアナウンサー 教育ボランティアの会 会長 平井 葉子 様
	内容 ・ 音の出る仕組み（母音と子音、鼻濁音、イントネーション、アクセント） ・ 生の声の効果（生の声で聞く物語の美しさ、声の効果の大きさを知る） 方法 ・ 発声練習とグループ内で声を確認し合う演習		<35名>
3	11月8日(木) 10:00~12:00	○「読む技術・聞かせる技術Ⅱ」 ～読み聞かせでの発声法～	フリーアナウンサー 教育ボランティアの会 会長 平井 葉子 様
	内容 ・ 声の出し方（腹式呼吸、おなかから声を出す、声の大きさの調整） ・ 声の出やすい状態をつくる（自然な姿勢、息から声に、声の保持） 方法 ・ 腹式呼吸の練習とグループ内で持参した本の読み聞かせの演習		<35名>
4	11月1日(木) 10:00~12:00	○「ブックトークってな〜に」 ～ブックトークの説明、組み立て方など～	三条市役所市民部生涯学習課 長谷川 優子 様
	内容 ・ ブックトークの説明（テーマ決め、選書、紹介の順番と方法、実践、終わったら） ・ グループ内で課題の発表と次回の取組についての話し合い 方法		<34名>
5	11月8日(木) 10:00~12:00	○「やってみようブックトーク」 ～ブックトークで組み立て、発表～	三条市役所市民部生涯学習課 長谷川 優子 様
	内容 ・ 講師によるブックトークの実演 ・ グループでブックトークの組み立て、発表（テーマ：春・夏・秋・冬、4グループ） 方法 ・ 発表への指導・講評		<29名>

成果

- ・ 第1回目の錦先生の講演では、読書ボランティアの他、学校図書館や子育て支援ボランティアの受講希望があり、予想を上回る受講者の参加があった。講師の錦先生からは、学校や図書館での読書活動だけでなく、家庭教育でも読書活動は重要である、というこれからの読書活動推進に向けた深い内容の講義であった。
- ・ 第2・3回目の平井先生の講義と演習では、「自然な音が心地よく聞きやすい、自分の声に自信を持ってほしい」ということから、受講生は声を出す練習を通して自分の声を確認することができ、読み聞かせにおける上でベースとなる面から、大きな収穫となった。
- ・ 第4・5回目の長谷川先生の講義と演習では、ブックトークの説明を受けた受講生がグループでブックトークを組み立て、発表した。講師の指導・講評を受けた受講生からは、ブックトークをもっと学びたい、実践してみたいという意見が多く出された。

課題

- ・ 受講者の都合を考慮すれば、半日日程で5回は検討が必要と考える。また、受講生の演習の充実を考えた場合、3人の講師による講座は慌ただしい感じを受けた。1日日程を考え、講座内容もしぼってやる必要もある。
- ・ 受講生も年々増加し、取組も意欲的であることから、次年度も本講座の継続した実施が必要である。また、講座への関心が高まる中、学校関係者への積極的な働きかけを行い読書ボランティアと学校の連携協力につなげたい。

問合せ先

新潟県教育庁下越教育事務所社会教育課（担当：武石 由紀） TEL:025-231-8361

事業名

〔平成24年度子ども読書ボランティアリーダー養成講座(佐渡地区)〕

目的

子どもの読書活動を推進するため、読み聞かせ等のボランティアの更なる質の向上を目指して講座等を開催し、地域におけるリーダーの育成とネットワークの構築を図る。

実施主体

新潟県教育庁生涯学習推進課・佐渡市立中央図書館

参加対象

子どもボランティアの活動に興味のある方

参加者数

延べ120名

回数

4回

日数

3日

時間

8時間

場所

佐渡市立中央図書館

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	10月6日(土) 13:30~15:30	講義：「心躍る、絵本の世界へ」 - 絵本の楽しみを子どもたちと -	新潟大学 非常勤講師 錦 恵美子 様
	(内容・方法) 作家が絵本を作るのにどれほどの時間をかけ、読み継がれていくのか、またその絵本に対して子どもたちがどのように受け止め成長していくかということ、家庭文庫の経験や、絵本の作者の文章を引用しながら具体的にお話しされた。 [41名]		
2	10月13日(土) 13:30~15:30	読み聞かせの技法 - ボイストレーニング等 -	フリーアナウンサー 平井 葉子 様
	(内容・方法) 読み聞かせでの声の役割と音の効果・発声法について、分かりやすくお話しされた。①声のでる仕組み ②生の声の効果 ③声の出し方 ④声の出しやすい状態をつくる。という4つの項目ごとに全体で声を出しながら、自然の声の出し方、腹式の声の出し方を体験することでいい声、響く声が出せる。 [33名]		
3	10月20日(土) 10:00~12:00	読み聞かせのための本の選定について - まずは一冊の本から -	元高等学校司書 野上 千恵子 様
	(内容・方法)「絵本」とは?「読み聞かせ」とは?絵本を選ぶ時のポイント、読み聞かせのポイントやプログラムを考える事の大切さに関わる講話。 [23名]		
4	10月20日(土) 13:00~15:00	やってみよう読み聞かせ - 読み聞かせの演習・講評 -	元高等学校司書 野上 千恵子 様
	(内容・方法) 午前に行き続き、午後読み聞かせの実技を行う。その後全員で講評を述べあう。 [23名]		

成果

・毎年、このボランティアリーダー養成講座を楽しみにしている人が多くなり、特に1回目の錦先生の講義には、ボランティア活動をされていない母親や保育士など多数の参加者がいた。また、今年度は、読み聞かせをテーマに行ったせいか、初心者も抵抗なく参加でき好評であった。

課題

・毎年開催しているため、受講生が固定化し、初心者との開きが大きくなってきたように思う。また受講した以上ボランティアグループに登録をお願いしているが登録者が増えない。

問合せ先

佐渡市立中央図書館 (担当：渡辺 日出子) Tel：0259-63-2800

事業名

〔平成24年度 小・中・特別支援学校PTA指導者研修会（上越地区）〕

目的

心身ともに健全な児童生徒の育成に向けて、PTA活動に関する研修を行い、PTA活動の活性化を図る指導者としての資質向上をめざす。

実施主体

主催：新潟県教育委員会 主管：上越教育事務所社会教育課

参加対象

小学校、中学校、特別支援学校PTAの役員及び教職員会員

参加者数

192名

回数

1回

日数

1日

時間

3時間10分

場所

ユートピアくびき希望館（上越市）

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月20日（水） 13:20～16:30	学校と家庭、地域をつなぐ PTA活動の工夫 ～家庭教育にPTAとして どう関わればいいのか～	・胎内市立築地小学校長 宮本 均 様
	内容・方法	(1) 開会式 ・開会の挨拶 上越教育事務所長 ・趣旨説明 県教育庁生涯学習推進課成人教育係 (2) 講義 「PTAと家庭教育」 胎内市立築地小学校長 宮本 均 様 (3) 分科会 ・小学校部会、中学校部会、特別支援学校部会別の29グループに分かれて実施 (4) 閉会式	
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・講演について、参会者からは「わかりやすく具体的な内容だった」「人頼みではなく保護者の主体性が大切だと改めて感じた」という声が多く、97%の参会者が「学ぶことがあった」と回答した。 ・1グループ6～7人構成として、気軽に発言できるように配慮した。「とても多く発言ができ、参加しがいがあった」「他校から取り入れたいことが沢山聞けて、自校の良さも改めて分かった」などの感想があり、98%が「役だった」と回答した。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての学校から参加が得られるように、内容の充実と案内及び申込集約の工夫を行う。 ・研修会終了後のアンケートの一部に保護者と教員の意識の隔たりがみられたことから、分科会前の説明で、その傾向も知らせ、分科会の意義を確認する。 ・小学校と中学校では、PTAのあり様が違うので、講演（事例発表）や講評を校種別に行うことも考える。 		

問合せ先

新潟県教育庁上越教育事務所社会教育課（担当：七澤伸一） TEL：025-526-9377

事業名 [平成24年度 上越地区 社会同和教育市町村巡回研修会]

目的 県民の同和問題や社会同和教育の在り方について理解を深め、部落差別の解決に向けての確かな実践を促すため、広く県内市町村を巡回して研修を行う。

実施主体 主催：新潟県教育委員会 主管：上越教育事務所社会教育課

参加対象 妙高市（巡回重点地区）、糸魚川市、妙高市 **参加者数** 153名
 社会教育委員、公民館運営審議会委員、PTA関係者、
 社会教育関係団体・グループ関係者、人権擁護委員、
 民生委員（児童委員）、教育委員会職員等教育行政関係者、
 小・中・高・中等教育・特別支援学校関係職員 等

回数 1回 **日数** 1日 **時間** 3時間20分

場所 妙高市立新井中央小学校

内容

回	期日・時間	テーマ	講師
1	9月13日（火） 13:15～16:30	「学校における人権教育、同和教育の取組を、どのようにして地域で生かしていくか」	前上越市教育委員会 長谷川 新平 様
	内容・方法	・開 会 13:10～13:20 進行：上越教育事務所 趣旨説明 県生涯学習推進課 西川昌宏 社会教育主事 ・授業参観 13:30～14:15 6年生1組（自教室） 6年生2組（自教室） ・講 話 14:30～15:15 （体育館） 演題 「家庭や地域で人権教育、同和教育をすすめるために」 講師 前上越市教育委員会指導主事 長谷川新平 様 ・グループ協議 15:20～16:20 テーマ「差別はなぜ起こる、なくしていくためにどうする、自分の立場でできること」 ワールドカフェ方式、20グループで実施 ・閉 会 16:20～16:30 進行：上越教育事務所	

成果 ・授業参観、講話、グループ協議の3本柱で実施した。また、今回は初めて学校を会場にして、上越地域社会同和教育の市町村巡回研修会を開催した。概して好評であった。参会者の参加比率が以下の点で依然として課題となっている。

課題 ・参会者は昨年度よりも教職員以外（一般市民）の参加比率はアップしているが、教職員の参加者がおよそ6割強を占めている。社会同和教育の巡回研修会なので、市民の参加が一層増える研修会にするように、今後一層工夫を加えていかなければならない。

問合せ先 新潟県教育庁上越教育事務所社会教育課（担当：望月正樹） TEL:025-526-9377

事業名 [平成24年度 学習プログラム学び合い研修会]

目的 管内3市の実態や行政課題に基づいて行われている生涯学習・社会教育事業を3市の行政担当者が持ち寄り、お互いに学び合うことを通して、学習プログラムへの理解を図り、各市の学習活動の充実並びに上越地域の生涯学習・社会教育の充実に資する。

実施主体 主催：上越教育事務所社会教育課

参加対象 上越管内3市生涯学習担当職員、上越教育事務所社会教育課職員

参加者数 13名（第1回研修会）

回数 11回 **日数** 11日 **時間** 各回2～7時間

場所 上越教育事務所303会議室、3市各事業実施会場

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	4月22日（金） 15:10～17:00	事業を紹介し合い、事業の企画立案を学び合う	県立生涯学習推進センター 学習振興課長 諏訪部寛栄 様
	内容・方法	事業紹介 ＊事前に提出された事業紹介シートについて、各市担当者がそれぞれの事業内容を紹介 ＊主な紹介事業：（上越市）①公民館お茶の間講座 ②文化講演会 （糸魚川市）①週末活動事業「ワクワク探検隊」②同事業「海とあそぼう！」 （妙高市）①子縁人材活動制度、 ②市民大学講座（ボランティア・NPO活動支援事業） 事業学び合い・指導 ① 県立生涯学習推進センター学習振興課長 諏訪部寛栄氏 事業説明と講話 「元気な地域社会を創造する地域連携事業～新しい公共・NPO・コミュニティデザイン～」 昨年度に続き2度目の講話をいただいた。昨年度の結論「『ふるさと』は帰る場所ではなく、 発見する場所。これを受けて本年度は「地域連携の歴史的な振り返り、新しい『公共』、新しい『公共』推進会議(2010)、NPO法、NPO関連情報、新潟県におけるNPOと行政の共働 について」を骨子に講話を伺った。NPOとのコラボレーションについて大変参考になった。 ② 市の取組事業紹介と協議、情報交換を行った。	
2	期日・時間	テーマ	講師等
	事業参観日数 延べ7日間	事業を参観し、そのよさを学び、指導支援に生かす	
内容・方法	事業参観 ＊紹介された事業を中心に事業を参観し、後に事業の感想や意見を担当者に送る。 ・参観事業：（上越市）謙信KIDSスクールプロジェクト～海と山と大地の楽校～ 「木の楽校（いこいの森）」 「くびき野楽校（岩の原葡萄園）」 「森の楽校（信越トレイル）」 （糸魚川市）週末活動事業「海とあそぼう！」（中能生地区） （妙高市）市民大学講座①・②（北國街道巡検の旅） 妙高市民の心推進大会（妙高市文化ホール）他		
成果	・事業のねらいや特色など、各事業の抱える課題解決と合わせて、具体的且つ有効な進め方について3市担当者間で話し合い、貴重な時間を共有することができた。また、地域指導者の活用による事業展開の有用性と必要性を強く認識することができた。		
課題	・昨年度に比べて事業の参観数は増加した。事務所職員の人数は2名と減少したが、3市事業の訪問こそ当課の生命線と捉え、今後も事業の把握と支援指導に努めること。		

問合せ先 新潟県教育庁上越教育事務所社会教育課（担当：望月正樹） TEL：025-526-9377

事業名 [平成24年度 小・中・特別支援学校PTA指導者研修会]

目的 PTA活動に関する研修をとおして、指導者としての資質の向上を図り、PTA活動の活性化を目指す。

実施主体 主催：新潟県教育委員会（主管：中越教育事務所）
共催：小千谷市教育委員会、刈羽村教育委員会

参加対象 小学校、中学校、特別支援学校PTAの役員及び教職員 **参加者数** 372名

回数 2回 **日数** 2日 **時間** 11時間20分

場所 小千谷市民会館（6／8）、刈羽村生涯学習センター・ラピカ（6／22）

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等			
1	①6月8日(金) 10:00～15:40	学校と家庭、地域をつなぐPTA活動の工夫	講師： 新潟県生涯学習推進課副参事 小池 尚子 ファシリテーター： 県生涯学習関係職員8名			
	②6月22日(金) 10:00～15:40					
1	内容 方法	○ 日程 9:30 10:00 10:15 11:00 12:00 13:00 15:30 15:40				
		受付	開会式	講義 「新潟県PTA活動の手引き」の活用について	グループワーク (自己紹介・講義について)	昼食
		○ 講義題 「新潟県PTA活動の手引き」の活用について				
		○ 協議 「課題解決のためのグループワーク」(12分散会 約62班、各グループ6名程度)				

成果

- ・1校の参加者数を2名以内と制限したため、参加者数は横ばいであるが、不参加が続いていた学校に声かけをした結果、参加校率が大幅に上がった。
- ・グループワークは、これまでの積み上げもあり、初めて経験した参加者も「他校の情報を聞いて参考になった。」「意見交流が楽しくできた。」等、プラスの声が多く聞かれた。

会場	参加者	校種	対象学校数	参加校数	参加校率	参加人数
小千谷市	161名(151)	小学校	211校(216)	208校(189)	98.6%(87.5)	245名(238)
刈羽村	211名(209)	中学校・中等教育校	99校(99)	98校(91)	99.0%(91.9)	114名(109)
計	372名(360)	特別支援学校	9校(9)	8校(7)	88.9%(77.8)	13名(13)
	()内は23年度	全体	319校(324)	314校(287)	98.4%(88.6)	372名(360)

課題

- ・講義については、学校で喫緊の課題であるいじめ問題や保護者に認識の差がある同和問題などの人権に関するテーマを取り上げることも検討していきたい。
- ・「会場が遠い」という声が聞かれた。確かに田上や湯沢から会場までは距離がある。また、来年度はファシリテーターを1会場につき6名確保することは難しそうである。来年度も、参加者は今年度並みになることが想定されるので、会場をもう1か所(見附or三条)増やす方向で検討したい。

問合せ先 新潟県教育庁中越教育事務所社会教育課（担当 呉井 済） TEL：0258-38-2652

事業名

〔平成24年度 社会同和教育市町村巡回研修会〕

目的

同和問題の正しい理解を深め社会同和教育の実践を促すため、広く県内市町村を巡回して研修を行う。

実施主体

主催：新潟県教育委員会（主管：中越教育事務所）

<十日町・津南会場>

共催：十日町市教育委員会、津南町教育委員会

<柏崎・刈羽会場>

共催：柏崎市教育委員会、刈羽村教育委員会

参加対象

十日町市・津南町及び柏崎市・刈羽村にお住まいお勤めの方

（生涯学習・社会教育関係者、民生委員、児童委員、人権擁護委員、社会教育行政職員、PTA・学校教育関係者、中越管内他市町村の希望者）

参加者数

<十日町・津南会場> 117名 <柏崎・刈羽会場> 124名

回数

2回

日数

各1日

時間

各3時間50分

場所

<十日町・津南会場> 十日町市千手中央コミュニティーセンター

<柏崎・刈羽会場> 柏崎市市民プラザ

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
十日町・津南会場	7月18日(水) 13:00～16:50	人権教育・同和教育の啓発	部落解放同盟新潟県連合会 執行委員長 長谷川 均 様
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開会式 ・開会挨拶 中越事務所長 ・祝辞 十日町市教育委員会 ○ オリエンテーション ○ 説明「県教育委員会の社会同和教育の取組について」 県生涯学習推進課担当 西川昌宏 ○ 講義「新潟県の部落差別の実態と同和行政、教育の課題」 ○ グループワーク「同和問題解消に向けて」～今、何をすべきか～ ○ 閉会式 ・グループワーク報告（代表グループ） ・閉会挨拶 	
柏崎・刈羽会場	9月26日(水) 13:00～16:50	人権教育・同和教育の啓発	部落解放同盟新潟県連合会 副執行委員長 嶋田守雄 様
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開会式 ・開会挨拶 中越事務所長 ・祝辞 柏崎市教育委員会 ○ オリエンテーション ○ 説明「県教育委員会の社会同和教育の取組について」 県生涯学習推進課担当 西川昌宏 ○ 講義「新潟県内における同和問題」 ○ グループワーク「同和問題解消に向けて」～今、何をすべきか～ ○ 閉会式 ・グループワーク報告（代表グループ） ・閉会挨拶 	

成果

社会同和教育と学校における同和教育の連携を図るために市町村に保護者の参加を依頼した。柏崎・刈羽会場では、市P連の協力で保護者の参加が増えた。講師の講義は現在も続く差別の実態を踏まえた内容で好評であった。グループワークでは、様々な立場の人と話し合うことで「参考になった」80%「少し参考になった」13%と参加者のほとんどが肯定的にとらえていた。研修に参加して「とても良かった」「まあまあ良かった」の感想がそれぞれ69%、29%であった。同和教育の推進に大きな効果があったと考えられる。

課題

本研修会で同和問題や学校での同和教育の取組について、初めて知った保護者や地域関係者が多く見られた。義務教育課の事業等とも連携を図りながら、学校・家庭・地域と連携した研修会を企画する必要がある。

問合せ先

新潟県教育庁中越教育事務所社会教育課（担当：島田 敏夫） TEL 0258-38-2652

事業名 [平成24年度 小・中・特別支援学校PTA指導者研修会]

目的 心身ともに健全な児童生徒を育成するPTA活動の活性化を図るため、PTA活動に関する研修を行い、指導者としての資質の向上を図る。

実施主体 主催：新潟県教育委員会(主管：下越教育事務所) 共催：開催市教育委員会

参加対象 小・中・中等・特別支援学校のPTA役員及び会員、教職員、行政職員等

参加者数 221名
(下越会場142名 佐渡会場79名)

回数 各1回 **日数** 各1日 **時間** 下越会場3.5時間、佐渡会場5時間

場所 1回目：胎内市産業文化会館 2回目：佐渡市トキのむら元気館

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月22日 3.5時間	「学校と家庭、地域をつなぐPTA活動の工夫」	新潟市立青山小学校 校長 真柄 正幸 様
	内容・方法	○講演 「今が好機！ PTA関係者への期待」 主な講演内容 ・学校を取り巻く状況について（①第3の改革と第3の教育改革、②教育基本法の改正、③学校教育法の改正、④学習指導要領の改定） ・PTA活動に求められるもの（①子どもたちの生きる力をはぐくむ、②学校・家庭・地域を結ぶ要としての役割、③親としての成長の機会） ・PTA活動の実際から ○分散会(ワークショップ) ・各PTAの取組と課題から、共通課題を設定し、その解決策を話し合った。最後にポスターセッションの形式で発表した。	
2	6月26日 5時間	「学校と家庭、地域をつなぐPTA活動の工夫」	新潟市立青山小学校 校長 真柄 正幸 様
	内容・方法	○講演 「今が好機！ PTA関係者への期待」 主な講演内容 ・学校を取り巻く状況について（①第3の改革と第3の教育改革、②教育基本法の改正、③学校教育法の改正、④学習指導要領の改定） ・PTA活動に求められるもの（①子どもたちの生きる力をはぐくむ、②学校・家庭・地域を結ぶ要としての役割、③親としての成長の機会） ・PTA活動の実際から ○分散会(ワークショップ) ・各PTAの取組と課題から、共通課題を設定し、その解決策を話し合った。最後に、全員の前で発表した。	

成果 ・PTA役員、学校教職員等に学校・家庭・地域の連携の大切さとPTAとして取り組む方向の示唆を与えた講演であった。また、参加者の評価は、「大変よい・よい」が100%（佐渡）、99%（下越）だった。分散会では、各単位PTAが地域との連携のための課題と解決について情報交換した。参加校率（佐渡100%、下越91.7%）

課題 ・分散会のグループの人数が多かったため、話す機会が少ない人もいた。次年度は、グループの人数を検討していく。
 ・佐渡市では小中連携校として統合され、PTAも減少した。今後、学校の統廃合が予定されており、参加人数は減少傾向にある。内容等を含め、今後検討する必要がある。

問合せ先 新潟県教育庁下越教育事務所社会教育課（担当：渡邊 和徳）TEL：025-231-8361

事業名 〔平成24年度 社会同和教育市町村巡回研修会〕

目的 すべての人々の人権が真に尊重される社会の実現を目指し、差別意識の払しょくを図り、人々の人権・同和問題に対する正しい理解と認識を深め、問題の解決に資することができるよう啓発を図る。

実施主体 主催：新潟県教育委員会（主管：下越教育事務所） 共催：聖籠町教育委員会
後援：新発田市教育委員会 阿賀野市教育委員会 胎内市教育委員会

参加対象 教育行政関係者、社会教育委員、公民館運営審議会委員、子ども会指導者、PTA・婦人会等社会教育関係団体の関係者、人権擁護委員、民生委員、社会福祉関係者、学校教育関係者、地域住民等

参加者数 94名

回数 1回 **日数** 1日 **時間** 6時間

場所 五泉市村松公民館・村松支所庁舎

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	7月12日(木) 10:00～16:00	社会同和教育の課題と今後のあり方について ～差別の現実から学ぶ～	部落解放同盟新潟県連合会 新発田住吉支部 支部長 長谷川サナエ 様
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・開会式(10:00～10:15) あいさつ 山田 亮一 (新潟県教育庁下越教育事務所長) 井上 幸直 (五泉市教育委員会教育長) ・講演(10:15～11:45) 演題 「差別を許さない自分づくり」 講師 長谷川 サナエ 様(部落解放同盟新潟県連合会 新発田住吉支部 支部長) ・県所管事項の説明(12:45～13:15) 西川 昌宏 (新潟県教育庁生涯学習推進課社会教育主事) ・ビデオ視聴(13:15～13:45) 題名 「私の中の差別意識」 ～部落差別問題から考える～ ・研究協議会「分散会」(14:00～16:00) 5グループに分かれての協議会 	

成果

- ・人権擁護委員、民生児童委員等を含めた一般地域住民の参加者は、全体の44%であった。また、行政関係者は19%、学校関係者は37%であり、ここ数年、一般地域住民の人権意識の高まりが感じられる。
- ・講演は、差別の実態を通して参加者一人一人に強く訴える内容で説得力があり、差別を許さない社会にするための確かな行動力の必要性を感じ取れる講演であった。
- ・アンケート結果から、講演内容は、大変よかった48%、よかった49%。ビデオ視聴は、大変良かった41%、よかった59%。分散会は、大変よかった58%、よかった42%であり、肯定的な評価がそれぞれ97%、100%であった。
- ・分散会では、人権感覚を磨くことの大切さ、社会同和教育と学校同和教育をつなぎ、地域ぐるみで差別を解決していくための活発な話し合いが行われた。

課題

- ・参加者募集の広報の工夫、対象地域の教育委員会の働きかけが大事である。差別意識、人権・同和問題に対する一般地域住民の正しい理解と認識を深めるためには、まずは多くの参加者を集めることが必要である。そのためには、人権擁護委員、社会教育委員、民生児童員等の諸会議での参加の呼びかけ、市町村独自の人権講演会の開催等が重要である。
- ・今後、より多くの参加者を確保するためにも、終日開催から午後日程の開催の可能性も検討していく必要がある。

問合せ先 新潟県教育庁下越教育事務所社会教育課（担当：武石 由紀） TEL:025-231-8361

事業名	〔 生涯学習推進職員研修会「基礎研修会」 〕		
目的	生涯学習・社会教育関係職員等の資質向上を図るために必要な基礎的・基本的事項について研修し、生涯学習の推進を図る。		
実施主体	新潟県立生涯学習推進センター		
参加対象	市町村生涯学習・社会教育関係職員等	参加者数	延べ110名
回数	3回	日数	4日
場所	新潟県立生涯学習推進センター大研修室・コンピュータ室		
内容			

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	5月16日(水) ～17日(木) 10:30～16:30	生涯学習・社会教育事業への挑戦 「はじめの一歩から」	講師：新潟県立生涯学習推進センター 所長 中島 憲一 課長 諏訪部 寛栄 発表：津南町教育委員会生涯学習班 主事 小林 義明 様
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年、基礎研に参加した方から1年間の取組の様子や苦勞を聞いた。その後グループワーク。 ・「生涯学習における社会教育の役割」「事業の企画及びプログラム作成の視点と手順」を講義した。 ・グループ内で事業計画及び学習展開計画を作成し発表した。 	
2	7月10日(火) ～7月12日(金) の中の1日	実践につなげよう	新潟県立生涯学習推進センター 課長 諏訪部 寛栄
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画のチェックとリデザイン(再検討)の意義やその仕方を説明。その後、各自が作成した事業計画をグループワークしながら再検討し、作成し直した。 	
3	11月9日(火) ～12日(金) の中の1日	広報・広聴のあり方を考える アイスブレイクの理論と実践を学ぶ	新潟県立生涯学習推進センター 課長 諏訪部 寛栄 新潟県レクリエーション協会所属 レクリエーション・コーディネーター 加藤 圭 様
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育における広報・広聴について説明した。 ・場を和ませ、話し合いがスムーズに進めさせるためのアイスブレイクを実践を通して学んだ。 	

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・全てセンター職員が講師となることにより、その都度話し合いながら参加者のためになる研修を目指すことができた。 ・研修に参加して成果があった91.6%、今後役に立つ93.2%と研修に満足している。 ・受講後も参加者同士が気軽に情報交換等できるようにする。
課題	

問合せ先 新潟県立生涯学習推進センター学習振興課 (担当：田邊寿夫) TEL：025-284-6110

事業名

〔事業企画力スキルアップ研修会〕

目的

地域の様々な課題に対応した学習機会の充実を図るために、事業企画立案のポイントやその手法について学び、資質能力の向上を図る。

実施主体

新潟県立生涯学習推進センター

参加対象

市町村生涯学習・社会教育関係職員・NPO等

参加者数

31名

回数

1回

日数

1日

時間

5時間

場所

新潟県立生涯学習推進センター

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月19日(火) 10:00～16:00	「事業企画力のスキルアップと実践意欲を高める。」	新潟大学大学院 准教授 雲尾 周 様
内容・方法	<p>研修1 講義「事業企画力のポイント」(10:00～12:00) 始めに参加者同士、自分が企画した事業でうまくいった事業について交互にインタビューし合い、紙にまとめた。特に、うまくいったと思われる促進要因について洗い出す作業を行った。 次に講師から、地域の把握から学習課題へについては、地域を知り実態を把握した中から、必要課題が出てくるとや住民の学びたいことが要求課題であることが説明された。学習課題は、要求課題と必要課題をとりまぜながら、設定することが大切であると話された。</p> <p>研修2 講義・演習「事業企画づくりについて」(13:00～16:00) 講師からイベントの基本的な構成要素である6W2Hの説明を受けた参加者は、うまくいかなかった講座の阻害要因を6W2Hに照らして、個人で検討してからグループで発表し合った。その後、イベント企画のポイントは、手段と目的が明確であることやイベントのプロデューサー・ディレクター、スタッフに求められる能力について説明された。 最後に、もう一度自分が持ってきた事業企画を6W2Hと促進要因・阻害要因を意識して作成し直し、その企画をグループ内で朱書きを入れながら意見交換する作業を行った。自分の考えた企画が、グループの人から意見をもらうことによって、更に企画がよくなることを実感できた受講生が多かった。</p>		

成果

- ・事業企画づくりは、参加者にとって仕事と直接結びついている課題である。講師だけでなくグループワークをとおして、参加者同士が情報交換しながら、自分の企画を作成することができた。企画づくりで大切なポイントを学ぶことできた。
- ・研修会の満足度・今後の活動に役立つかのアンケート調査でも、いずれも100%であり受講者は満足したと考えられる。

課題

- ・市町村だけでなくNPO等にも対象者を広げることによって参加者が増えた。
- ・市町村だけでなくNPO等にも対象者を広げたが、多様なニーズに応えながら企画力をスキルアップさせる研修内容を考えていくことが今後の課題である。

問合せ先

新潟県立生涯学習推進センター学習振興課(担当:田邊寿夫) TEL:025-284-6110

事業名

〔リーダー等研修会〕

目的

新潟県のような地域課題に対応した生涯学習・社会教育の推進が求められている中で、課長・係長・公民館長・社会教育主事等の専門性を高め、資質・指導力の更なる向上を講義と演習で図る。

実施主体

新潟県立生涯学習推進センター

参加対象

市町村生涯学習・社会教育関係課長・係長、公民館長、県・市町村において社会教育主事として発令されている方、NPO・PTA等の団体役員

参加者数

32名

回数

1回

日数

1日

時間

3時間

場所

新潟県立生涯学習推進センター

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
	9月25日(火) 10:00～16:00	「地域の教育力を高めるこれからの社会教育の方向性を考える。」	神戸大学大学院 教授 松岡 広路 様
1	内容・方法	<p>研修1 講義「新しい公共」と「ソシオ・エデュケーション・社会教育」 (13:30～15:05)</p> <p>ESDとは「ゆっくりと生活を考えて社会を考えましょう」という説明から入り、「新しい公共」について説明された。新しい公共としてのNPOの中にも、利益追求や理想実現のために互惠精神で携わっていないような問題点を示された。そのために、「公共圏」（対話的公共性の高い場）と「親密圏」（家族・親友）との間をつなぐ、サブ公共空間が大切であるとして、互いに境界のある多様な人々が出会うことのできる取組や人が希望をもち、新しいコミュニティが生まれる取組を実践を交えて説明された。そして、社会の中のあらゆる教育的機能を含む「ソシオ・エデュケーション」について説明された。</p> <p>研修2 演習「ワールドカフェ（意見交換会）」(15:15～16:30) 「社会教育再生への道のり」と題して、5人グループとなり13分毎に違うグループに移り（3回）情報交換するワールドカフェツアーを体験した。以下の項目の中から自由に話し合いを行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「教育」の観念からいったん自由になる。 2 原則＝「初めにボランティア・自発的行動がある。 3 エンパワーメントのために、あらゆる方法を駆使する。 4 福祉・カウンセリングの世界とつながる。 5 多様な人が出入りする小さなコミュニティを大切にする。 6 地球的・汎社会的課題の解決のための活動を行う小さなコミュニティを大切にする。 7 小さなコミュニティ同士が出会える空間・イベント・きっかけをつくる。 8 「マルチ・ステータスホルダーズ・コミュニティ」の創成！ 	

成果

・研修会の満足度は、96%の受講者が成果があったと答えている。講義及びグループワークにおいて大勢の参加者と意見交換できたことで満足したと考える。

課題

・各事務所と連携し市町村等へ働きかけを行ったことやNPO・PTA団体等へも広報したことで、30名を超える参加者があった。
・講義及び演習の時間が短いという参加者の声があった。リーダー的な立場の方に1日参加の時間設定は難しいのではないかと考え半日設定にしたが、松岡先生の楽しく分かりやすい講義及び演習でそう感じたと考える。

問合せ先

新潟県立生涯学習推進センター学習振興課（担当：田邊寿夫）TEL：025-284-6110

事業名

〔 文書館歴史講座 〕

目的

文書館所蔵資料を用いて、特定のテーマに沿った新潟県の歴史講座を提供する。

実施主体

新潟県立文書館

参加対象

一般県民

参加者数

1回～2回 149名

回数

3回

日数

3日

時間

4時間30分

場所

新潟県立文書館

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	5/12 13:30～15:00	第1回文書館歴史講座 「和泉佳逸～ある幕末草莽志士の生涯～」	新潟県立文書館 副館長 余湖明彦
	内容・方法	県立文書館寄託の五泉市和泉家文書の資料をもとに、幕末から明治の初めにかけて活躍した和泉佳逸の動向を中心としながら越後の尊皇攘夷運動の一側面について解説した。	
2	10/27 13:30～15:00	第2回文書館歴史講座 「和本の世界へようこそ～江戸時代の豊かな書物～」	東京神田誠心堂 店主 橋口侯之介 様
	内容・方法	特別企画展の記念講演会として実施。江戸時代の和本の歴史や出版文化などについて、『北越雪譜』などを例にあげながら解説した。	
3	3/9 13:30～15:00	第3回文書館歴史講座 「越後の漂流民が見たアメリカ(仮題)」	新潟県立文書館 主任文書研究員 斎藤直人
	内容・方法	県立文書館寄託の丸岡家文書にある漂流民の聞書などを題材として幕末の越後の歴史の一端を解説する。	

成果

- ・ 古文書解読ではなく、文書館所蔵資料を用いてその歴史的背景などを学ぶ講座としたことで、誰でも気軽に参加できる講座となった。

課題

- ・ 特記事項なし

問合せ先

新潟県立文書館 TEL : 025-284-6011

事業名

〔古文書解読講座〕

目的

古文書の解読を通じて文書等の保存についての普及・啓発をはかるとともに、新潟県や県内各地域の歴史に対する理解を深める学習機会を県民に提供する。

実施主体

新潟県立文書館

参加対象

一般県民

参加者数

延べ475名

回数

6回

日数

2日又は3日

時間

1日2時間

場所

出張解読講座は五泉市総合会館、それ以外は新潟県立文書館

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	夏季：6/1, 8 追加：6/22, 29 秋季：10/5, 12 13:30～15:30	初心者のための古文書講座（夏季、夏季追加、秋季）	新潟県立文書館 嘱託員 亀井功
	内容・方法	典型的なくずし字で書かれている近世の古文書をテキストとして用い、変体がなや基本的な用語を中心に文字の解読を行った。	
2	夏季：7/6, 13 秋季：11/2, 9 13:30～15:30	古文書中級解読講座（夏季、秋季）	新潟県立文書館 主任文書研究員 尾崎法子
	内容・方法	近世から近代にかけて出版された和本の中から、越後・佐渡に関係のあるものをテキストとして用い、文字の解読や時代背景などの解説を行った。	
3	期日・時間	テーマ	講師等
	9/14, 20, 28 13:30～15:30	古文書出張解読講座	新潟県立文書館 副館長 余湖明彦
内容・方法	五泉地域に残された近世文書をテキストとして用い、初歩的な文字の解読と時代背景などの解説を行った。		

成果

- ・ 今年度から初心者向けと中級者向けに分けて実施した。初心者向けは大変好評であり、夏季は講座を追加開催した。

課題

- ・ 特記事項なし

問合せ先

新潟県立文書館 TEL：025-284-6011

事業名 [文書館サマーセミナー]

目的 文書館所蔵資料や施設を紹介するミニ講座。夏休みに気軽に文書館へ来てもらう事を目的として実施した。

実施主体 新潟県立文書館

参加対象 一般県民

参加者数 延べ99名

回数 5回

日数 5日

時間 1日50分

場所 新潟県立文書館

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	7/27, 8/3, 10, 17, 24 10:00～10:50	文書館サマーセミナー 文書館を隅から隅まで紹介します！	新潟県立文書館 主任文書研究員 斎藤直人 高橋克己 嘱託員 西出可奈子 岡田佐輝子 尾崎邦子
	内容・方法	県立文書館所蔵資料を、公文書、古文書、教科書、新聞に分けて紹介し、最終日には書庫やくん蒸室などの文書館施設を見学しながら、文書館の所蔵資料の概要や業務について解説した。	

成果 ・ 文書館の紹介をテーマとしたことで、利用者に対して文書館をより深く知ってもらう機会とすることができた。

課題 ・ 特記事項なし

問合せ先 新潟県立文書館 TEL：025-284-6011

事業 [青研スキルアップセミナー]

目的 青少年指導者としての専門的な知識・技術を体験的に学び、地域や職場における指導者の養成及び資質の向上を図る。

実施主体 新潟県立青少年研修センター

参加対象 18歳以上の方（高校生を除く）

参加者数 延べ55名 **回数** 2回 **日数** 第1回日帰り 第2回1泊2日

場所 新潟県立青少年研修センター

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	4月29日(日)	ここがポイント！自然体験のツボ ³ ！	たいない自然学校 佐藤 陽志 様
	内容・方法	・角田山登山と野外活動の危機管理についての講義をとおして、自然にふれあう楽しさを体験するとともに安全な野外活動の基本的な知識・技術を身につける。	
2	期日・時間	テーマ	講師等
	5月12日(土)～ 5月13日(日)	レクリエーション	新潟県レクリエーション協会 本田 史朗 様 田嶋 雄洋 様
	内容・方法	・レクリエーション実習をとおして、基礎的なレクリエーションの指導法を研修するとともに望ましい人間関係のあり方について学ぶ。	

成果 ・地域や職場でのリーダーが事業を企画する際の知識・技術及びヒントを十分に提供できた内容である。

課題 ・より多くの方々から参加していただくために、開催期日やPRの方法を検討していく必要がある。

問合せ先 新潟県立青少年研修センター 研修課 TEL：0256-77-2111

事業名 [家族でエンジョイ！ふれあい体験ランド]

目的 家族の絆を強めるとともに、地域での指導力の向上を図る。

実施主体 新潟県立青少年研修センター

参加対象 家族、親子（子どもは小学生以上） **参加者数** 延べ199名

回数 3回 **日数** 各回1泊2日

場所 新潟県立青少年研修センター

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	7月21日(土) ～ 7月22日(日)	第1回 「親子で夢中！ドキドキの夏」	青少年研修センター 研修課職員
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・海浜活動（レクリエーション・スイカ割り等）とテントクラフト、キャンプファイヤー、水産教室（海藻押し葉しおりづくり・タッチ水槽・漁業についての話・水産加工品の試食）などをとおして、親子間の絆を深め、家族間のコミュニケーションを図る。 ・青少年指導者として、夏の体験活動の知識と実践力を身に付ける。 	
2	10月20日(土) ～ 10月21日(日)	第2回 「親子で夢中！ワクワクの秋」	青少年研修センター 研修課職員
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトルランタン・ジャックオーランタン作り、ナイトハイク、酪農体験（搾乳体験・ジュラート作り・牛舎見学）、バター作りなどをとおして、親子間の絆を深め、家族間のコミュニケーションを図る。 ・青少年指導者として、秋の体験活動の知識と実践力を身につける。 	
3	2月23日(土) ～ 2月24日(日)	第3回 「親子で夢中！ウキウキの冬」	青少年研修センター 研修課職員
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・チーズ作り・クラフト（杉板焼き）をとおして物作りの楽しさを感じ、キャンドルファイヤーに取り組むことで家族・親子の絆を深め、家族間のコミュニケーションを図る。 ・青少年指導者として、冬の体験活動の知識と実践力を身につける。 	

成果	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で協力して取り組むメニューを用意したことで、参加者の多くから家族のふれあいの時間がとれたと好評であった ・地域の産業や自然を生かした活動をしたことにより、参加した親からPTA活動の参考にしたいとの感想が寄せられた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・事業参加を機会に子ども会等の行事に積極的に参加する意識が定着するように、内容や取り組み方法を考えていくことが必要である。新規参加者のさらなる獲得のため、広報手段を今後検討する必要がある。

問合せ先 新潟県立青少年研修センター 研修課 TEL 0256-77-2111

事業名 [グループワークトレーニング研修]

目的 グループワークトレーニング研修をとおして、青少年指導者の資質や指導力の向上を図る。

実施主体 新潟県立青少年研修センター

参加対象 18歳以上（高校生を除く）

参加者数 27名

回数 1回 **日数** 各回1泊2日

場所 新潟県立青少年研修センター

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月17日（土）～ 11月18日（日）	グループワークトレーニングを体験し、関係を磨く。	日本グループワークトレーニング協会 三好 良子 様
	内容 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の対人関係のあり方に気づく ・コミュニケーションスキルについて学ぶ ・他者と協働するスキルについて学ぶ ・ホスピタリティーについて学ぶ ・磨かれた関係力を生かして 	

成果

- ・本事業は、異年齢・異業種で行われるため、新鮮であり収穫が多いという意見がある。普段では経験することのできない交流が生まれる機会になっている。
- ・研修した内容を職場や地域で生かしたいと考え参加する方が多い。今年度も多くのスキルを持ち帰ることができたという声が多かった。

課題

- ・スケジュールにゆとりを持たせてほしい。自由時間や休息時間にフリートークができるような時間がほしいという意見があった。日程について検討していきたい。
- ・リピーター率が高くなることで、初心者が入りにくくなるという危険性もある。経験者と初心者をどう位置付けていくかを考えていきたい。

問合せ先 新潟県立青少年研修センター 研修課 TEL：0256-77-2111

事業名

〔 物づくり体験塾 in 越前浜 〕

目的

当センター近隣地域で活動されている芸術家・作家の方々に指導を依頼し、物づくりの様々な創作活動の研修を行うことで、地域との連携・協力体制を深め、さらに協働して青少年育成に取り組む気運を高める。

実施主体

新潟県立青少年研修センター

参加対象

小学生以上の県民

参加者数

延べ45名

回数

2回

日数

各回 1日

場所

新潟県立青少年研修センター

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	11月4日(日)	栗の葉染め～ねずみ色～コットンバッグ染め体験	染物作家 星名 康弘 様
	内容・方法	・身近な材料（センター敷地内の栗の葉）を染料に使い、コットンバッグ染めを体験する。	
2	12月2日(日)	片貝木綿を使用してつくる手縫いの帽子	帽子作家 谷 和彦 様
	内容・方法	・片貝木綿を使用してつくる帽子づくりをとおして、本物の「こだわり」にふれ、物づくりの楽しさを味わう。	

成果

・参加者は、物づくりの醍醐味を十分味わうことができた。当日キャンセルがあったが、第1回の参加申込みは定員を上回っており、内容は参加者のニーズに合うものであったと言える。

課題

・車いすでの移動を要する参加者対応等、公的機関として施設内バリアフリーは必要である。

問合せ先

新潟県立青少年研修センター 研修課

TEL：0256-77-2111

事業名

〔カヌーに親しもう〕

目的

カヌーの楽しさを体験し、海洋スポーツに対する関心を高める。
家族一緒にの活動を通して、ふれあいを深める。

実施主体

新潟県少年自然の家

参加対象

小学校4年生～中学生を含む家族

参加者数

145名

回数

4回

日数

2日

時間

各回午前・午後とも3時間

場所

胎内川河口周辺・新潟県少年自然の家艇庫前

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1・2	8月4日（土） 午前の部 9:00～12:00 午後の部 13:30～16:30	潮風や川面の風は気持ちがいいよ！ 家族いっしょに、カヌーでスーイスイ！	新潟県少年自然の家職員 非常勤職員
	内容 ・ 方法	○ 前半は胎内川及び河口でのカヌーの初歩的な操作方法を習得し、後半は川をカヌーで漕ぐことを通して、自然の様子を観察し、家族のふれあいを深めた。 ○ 波が高く海には漕ぎ出すことはできなかったが、家族で励まし協力しながら川の上流に上ったり河口の岸に上陸したりした。浜辺で、ライフジャケットで遊んでから再びカヌーで出発し、川の流れや水面からの景色を楽しみながらカヌー体験をした。	
3・4	8月12日（日） 午前の部 9:00～12:00 午後の部 13:30～16:30	潮風や川面の風は気持ちがいいよ！ 家族いっしょに、カヌーでスーイスイ！	新潟県少年自然の家職員 非常勤職員
	内容 ・ 方法	○ 前半は胎内川及び河口でのカヌーの初歩的な操作方法を習得し、後半は川や海をカヌーで漕ぐことを通して、自然の様子を観察し、家族のふれあいを深めた。 ○ 午前の部は好天に恵まれ、家族で協力し海まで漕ぎ出し、日本海でのカヌーを楽しんだ。午後の部は、波が出てきたため全員で上流に登り、河口に戻ってきたからフリータイムにして決められた範囲を自由に漕いで回り、カヌーの楽しさを体験した。	

成果

- ・ 今年度も昨年同様、午前の部、午後の部を設け、1日に2回実施した。また2回とも8月開催にしたことで多数の応募があり、参加者はカヌーの楽しさを十分に体験し、家族とのふれあいを満喫した。定員を超え、抽選を行うほどの人気であった。

課題

- ・ 天候に左右される事業である。3時間のカヌー体験では、最低2つの体験コースが必要である。家族や個人の技能レベルに合わせて、海にチャレンジコースと川でゆったりコースを設定した。コースが分かれたときのスタッフの人員配置で、安全管理が絶対条件となる中、非常勤職員やボランティアスタッフの存在は大きい。来年度以降もスタッフの充実は欠かせない。河口付近が狭くなってきており、海に出ることが難しくなっている。河口整備が必要である。

問合せ先

新潟県少年自然の家 指導課（担当 鈴木 昭俊） TEL：0254-46-2224

事業名 [自然・ふれあい！家族のつどい]

目的 春・秋・冬の自然体験を通して、家族のふれあいを深め豊かな情操や社会性を育てる。

実施主体 新潟県少年自然の家

参加対象 小・中学生を含む家族

参加者数 183名

回数 3回

日数 各回1泊2日

時間 各回24時間

場所 新潟県少年自然の家（胎内市乙字大日裏）

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	4月21日(土) ～4月22日(日)	桜の名所に桜もち！春らんまん、桜づくし	新潟県少年自然の家職員
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長命寺と道明寺、2種類の桜もちを家族で作って食べ、春の味を満喫した。 ○ 「いのちのあさがお」を家族みんなで視聴し、命の大切さを改めて感じる事ができた。 ○ 新発田市の大峰山に登山する予定であったが、残雪のため中止した。自然の家の遊歩道や敷地内をオリエンテーリングで散策した。途中、家族で乙宝寺を参拝したり、俳句や川柳を作ったりしながら春の空気を感じるとともに、他家族との交流を深めた。 	
2	9月8日(土) ～9月9日(日)	秋の胎内は魅力がいっぱい！ ～黒豚フランクづくり&カヌー体験～	胎内アウレツ館職員 新潟県少年自然の家職員 非常勤職員 カヌー指導ボランティア
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 胎内市で飼育されている黒豚の肉を使って、フランクフルトづくりを楽しんだ。また、穴掘りかま場で火をおこし、作ったフランクフルトを入れバーベキューにして食べた。爽やかな秋の空気を吸いながら胎内市の秋の味覚を楽しんだ。 ○ 胎内川河口のカヌー場でカヌーをしたり、釣りをしたり、浜辺で水遊びをしたりして家族のふれあいを深めるとともに、自然の豊かさを体感した。 	
3	12月1日(土) ～12月2日(日)	静かな森で一足先にクリスマス！！ みんなで楽しくクリスマス！！ ～手作りパーティーとグラスキャンドルファイア、リースづくり！～	新潟県少年自然の家職員
	内容・方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ クリスマスクッキングやグラスキャンドルファイアを通じて、家族のふれあいや他家族との交流を深めた。 ○ 冬の遊歩道を散策して、ツルやヒイラギの葉、サルトリイバラの赤い実を集め、それら自然素材を利用したクリスマスリースづくりを通して、冬の自然に親しんだ。 	

成果

- ・ 多様な自然体験活動を通して家族同士のふれあいが深まり、さらに他家族とのかかわりも生まれ、貴重な体験ができたという高い評価（満足度）を得ている。
- ・ 胎内市の職員の方々と一緒に活動することで、地元胎内市の文化や産業にふれる機会を増やし、活動プログラムの内容の充実を図っている。

課題

- ・ 広報の方法を工夫しながら、より多くの参加家族の獲得を目指す。
- ・ アンケートに寄せられる参加者の声を大切にしながら、事業改善を図っていく。

問合せ先

新潟県少年自然の家 指導課（担当：相澤 祐助） TEL:0254-46-2224

事業名	〔 映画鑑賞会 〕		
目的	展覧会に関連のある映画を上映し、鑑賞活動を深める一助とする。		
実施主体	新潟県立近代美術館		
参加対象	一般	参加者数	304名
回数	7回	日数	7日
場所	新潟県立近代美術館 講堂		
内容			

回	期日・時間	テーマ
1	5月5日(土) 1回目10時～、2回目14時～	「あした元気にな～れ『半分のさつまいも』」
	内容	海老名香葉子原作の昭和20年の東京大空襲で戦災孤児となった兄妹のたくましく生きる姿を描いたアニメーション作品。2005年制作、90分。
2	5月19日(土) 1回目10時～、2回目14時～	「12人の写真家」
	内容	新潟県出身の亀倉雄策が企画し、勅使河原宏が監督して制作された、木村伊兵衛、土門拳など当時の日本を代表する写真家のドキュメンタリー作品。1955年制作、49分。
3	9月15日(土)、22日(土) 13時～	ルートヴィヒ
	内容	ルキノ・ビスコンティ監督作品の、バイエルン王ルートヴィヒ2世の即位から死までを扱った歴史大作。1972年制作、237分。
5	9月22日(土) 1回目10時～、2回目14時～	ガス燈
	内容	パトリック・ハミルトンの戯曲を映画化したサスペンス作品。イングリッド・バーグマンがアカデミー賞主演女優賞を受賞。1944年制作、114分。
6	10月13日(土) 1回目10時～、2回目14時～	ジェーン・エア
	内容	シャーロット・ブロンテ原作の長編小説の映画化作品。孤児ジェーンが、家庭教師として住み込んだ家の主人と結ばれるまでを描く。1943年制作、96分。
7	11月10日(土) 1回目10時～、2回目14時～	アキレスと亀
	内容	北野武監督の売れない芸術家、倉持真知寿(まちす)とその妻幸子の夫婦愛を描いた作品。2008年制作、134分。

成果	・ 企画展に関連する映画を上映したことにより、時代背景を含めて展覧会をより深く鑑賞でき、参加者も毎回30～60名程度と好評であった。
課題	・ 予算が少額のため、新しい映画の上映が少なかった。

問合せ先 新潟県立近代美術館 学芸課 電話：0258-28-4111

事業名	〔 美術鑑賞講座 〕		
目的	美術に関する講座を行い、美術館や美術作品に親しむ機会とする。		
実施主体	新潟県立近代美術館		
参加対象	一般	参加者数	204名
回数	8回	日数	8日
場所	新潟県立近代美術館 講堂		
内容			

回	期日・時間	テーマ
1	5月12日(日) 14時～	デザインって何だろう
	内容	企画展『時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち』にあわせ、日常生活で使われているデザインについて紹介した。
2	5月26日(日) 14時～	書の雑学
	内容	看板や暖簾などに使われている様々な書体や書の歴史について紹介した。
3	6月2日(日) 14時～	終戦と日本画《日本画滅亡論》に画家たちはどう向き合ったか
	内容	終戦後、日本画滅亡論が唱えられた。その時に日本画家たちがどのように立ち向かったかを紹介した。
4	8月25日(日) 14時～	現代美術—映像作品の誕生
	内容	企画展『水の記憶：吉原悠博映像プロジェクト』にあわせ、映像作品がどのように誕生したかについて紹介した。
5	9月3日(日) 14時～	フランス世紀末芸術への招待
	内容	企画展『象徴派—夢幻美の使徒たち』にあわせ、19世紀末のフランス美術について紹介した。
6	10月6日(日) 14時～	文学と美術—漱石の見た倫敦
	内容	企画展『象徴派—夢幻美の使徒たち』にあわせ、同時代のイギリスに留学した夏目漱石を取り上げ、象徴派の受容の一端を紹介した。
7	10月6日(日) 14時～	新潟現代美術家集団GUNとその時代
	内容	企画展『GUN—新潟に前衛があった頃』にあわせ、1960～70年代に全国で展開された現代美術運動と新潟現代美術家集団GUNとの関連について紹介した。
8	12月22日(日) 14時～	雪をめぐる 雪をえがく
	内容	コレクション展『雪景』にあわせ、雪景を描いた美術作品について紹介した。

成果	<ul style="list-style-type: none"> 企画展やコレクション展の開催時期にあわせたテーマを設定したことから、各展覧会をより深く鑑賞できる機会を作ることができた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動をこれまで以上に行い、より多くの方から参加してもらえるようにする。

問合せ先 新潟県立近代美術館 学芸課 電話：0258-28-4111

事業名	〔 特別イベント（講演会、コンサート等） 〕		
目的	講演会、コンサート等を開催することにより、展覧会をより深く味わう機会とする。		
実施主体	新潟県立近代美術館		
参加対象	一般	参加者数	630名
回数	7回	日数	7日
場所	新潟県立近代美術館 講堂、企画展示室 長岡造形大学大講義室		
内容			

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月1日（金）	講演会「日本のデザイン」	グラフィックデザイナー 原 研哉 様
2	8月18日（土）	吉原悠博トークイベント	吉原写真館店主 新潟大学非常勤講師 吉原 悠博 様
3	9月23日（日）	コンサート「ピアノで聴く象徴派ードビュッシーを中心に」	ピアニスト 新潟大学非常勤講師 遠藤 吉比古 様
4	9月30日（日）	講演会「ロマン主義から象徴主義へー詩の世界を中心に」	新潟大学人文学部長 高木 豊 様
5	11月4日（日）	アーティストトーク	美術作家 前山 忠 様
6	11月18日（日）	アーティストトーク	美術作家 堀川 紀夫 様
7	12月8日（土）	シンポジウム「地方と前衛」	美術作家 前山 忠 様 堀川 紀夫 様 新潟市美術館長 塩田 純一 様 新潟大学教授 丹治 嘉彦 様 美術史家・翻訳家 富井 玲子 様

成果	<ul style="list-style-type: none"> 作家をはじめ、地域の人材の協力を得て、展覧会を別の視点で学ぶことができ、より質の高い機会を提供することができた。参加者も多く、感想もおおむね好評であった。
課題	<ul style="list-style-type: none"> より展覧会の内容を深めるため、人材のネットワークづくりや講師招聘のための予算確保等が必要である。

問合せ先 新潟県立近代美術館 学芸課 電話：0258-28-4111

事業名	〔 出前講座 〕		
目的	美術館が持つ人的資源を活用し、新たな発見と感動を提供し、想像力を育む機会とする。		
実施主体	新潟県立近代美術館		
参加対象	一般及び幼児児童生徒	参加者数	1, 176名
回数	17回	日数	17日
場所	県内17会場		
内容			

回	期日	講座名	参加者・会場等
1	5月8日(火)	鑑賞《みる》楽しみ	長岡市立上組小学校6年生
2	5月25日(金)	鑑賞《みる》楽しみ	長岡市立与板中学校1・2・3年生
3	6月14日(木)	デザインて何	長岡市立川口中学校3年生
4	6月15日(金)	デザインて何	南魚沼市立五十沢中学校3年生
5	7月21日(土)	モノトーンの世界	長岡市子育ての駅「ちびっこ広場」
6	7月29日(日)	写してアート	塩沢金城わかば児童館 児童
7	7月30日(月)	写してアート	上越市・門前にこにこ保育園
8	9月14日(金)	にじみの世界	新潟県立はまなす特別支援学校
9	9月21日(金)	デザインて何	新発田市立第一中学校1年生
10	9月25日(火)	鑑賞《みる》楽しみ	長岡市立新組小学校1・2・3年生
11	10月7日(日)	鑑賞《みる》楽しみ、紙コップツリー、フロッタージュ	長岡市立表町小学校1～6年生
12	11月13日(火)	鑑賞《みる》楽しみ	新潟市立荻川小学校6年生
13	11月22日(木)	写してアート	長岡市立新組小学校4・5・6年生
14	11月25日(日)	写してアート	長岡市子育ての駅ちびっこ広場
15	12月5日(水)	デザインて何	魚沼市立湯之谷中学校3年生
16	12月7日(金)	鑑賞《みる》楽しみ	長岡市立中島小学校2年生
17	12月14日(金)	写してアート	新潟市立茨曾根小学校6年生

成果	・ 当館収蔵作品を活用した鑑賞活動の出前講座を多く実施でき、鑑賞の楽しさを伝えることができた。
課題	・ 美術作品の鑑賞の楽しさやおもしろさをさらに広めていくとともに、講座担当者と学校関係者等との相互理解を深める必要がある。

問合せ先 新潟県立近代美術館 学芸課 電話：0258-28-4111

事業名 [ワークショップ]

目的 美術作品についてのより深い理解や、造形活動の楽しみを体験する機会を作る。

実施主体 新潟県立近代美術館

参加対象 一般

参加者数 270名

回数 19回

日数 19日

時間 各回約90分

場所 新潟県立近代美術館 講座室、コレクション展示室、ギャラリー

内容

回	期日・時間	テーマ
1	4月1日(日) 14時～	企画展『びじゅつのおそびば』ワークショップ わたしがモデル!? 《10人のインディアン》 《10人のインディアン》アレンジ絵皿づくり おはなしをつくろう
	4月8日(日) 14時～	
	4月15日(日) 14時～	
3	内容	企画展『びじゅつのおそびば』にあわせ、展示作品に関連するワークショップを開催した。講師は上越教育大学大学院生、小学校職員、絵本ナビゲーター等が担当した。
4	期日・時間	テーマ
4	4月22日(日) 14時～	美術館の舞台裏探検
	5月6日(日) 14時～	
	6月3日(日) 14時～	
6	内容	普段観覧者が見ることのできないバックヤードやボイラー室等を見学し、美術館職員の業務について、多角的な理解を深めた。
7	期日・時間	テーマ
7	4月29日(日) 14時～	しっかり観て 見ないで模写
	内容	コレクション展示室の作品を、その場でしっかり見て模写するとともに、見えない場所で改めて模写を行った。2回の模写で作品についてより深く鑑賞した。
8	期日・時間	テーマ
8	5月13日(日) 14時～	わたしの名刺をつくってみよう
	内容	企画展『時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち』にあわせ、オリジナルの名刺を制作するなかで、デザインの重要性に気づくようにした。
9	期日・時間	テーマ
9	5月19日(土) 14時～	ロゴ★ロゴ ミュージアム
	内容	企画展『時代を駆けるデザイン 亀倉雄策賞の作家たち』にあわせ、身近なロゴデザインやパッケージを取り上げ、クイズや模擬審査を通してその魅力を再発見した。
10	期日・時間	テーマ
10	5月20日(日) 14時～	なにかいる!? 野外彫刻たんけん隊
	内容	触ったりポーズをとったりする活動を通して、野外彫刻のおもしろさや楽しさを、味わった。
11	期日・時間	テーマ
11	5月27日(日) 14時～	ころころ 石ころアート
	内容	石ころの形から動物などをイメージして、そのイメージに沿った色をつけて、作品を制作した。

12	期日・時間		テーマ
	6月17日(日) 14時～		クイズでまわろう美術館
	内容	コレクション展『近代美術館の名品』にあわせ、展示作品についてクイズを解くことから、作品に関する理解を深めた。	
13	期日・時間		テーマ
	7月1日(日) 14時～		にじみのもようのうちわを作ろう
	内容	にじみの技法を使って、オリジナルのうちわを制作した。	
14	期日・時間		テーマ
	8月19日(日) 14時～		まわれペットボトル風見鶏
	内容	ペットボトルを利用して、よく回る風見鶏を制作した。	
15	期日・時間		テーマ
	10月8日(日) 14時～		世紀末パリの幻想 影絵のせかい
	内容	企画展『象徴派ー夢幻美の使徒たち』にあわせ、19世紀末のパリをイメージする影絵作品を、展示作品をモチーフに制作した。	
16	期日・時間		テーマ
	11月4日(日) 10時～16時		和紙でペタペタオブジェをつくろう(長岡造形大学こどもものづくり大学校連携事業)
17	11月18日(日) 10時～16時		
	内容	和紙と風船を使って、ランプシェードを制作した。制作は午前中に行い、午後はコレクション展や野外彫刻等を鑑賞する活動を行った。	
18	期日・時間		テーマ
	11月11日(日) 14時～		張り子のオブジェ
	内容	和紙と風船を使って、室内に飾るオブジェを制作した。	
19	期日・時間		テーマ
	11月18日(日) 14時～		ミニ掛け軸を作ろう
	内容	掛け軸の部品名や扱いに詳しくなるために、実際にミニ掛け軸を制作した。	

成 果	<ul style="list-style-type: none"> 企画展やコレクション展の開催時期にあわせたワークショップを設定したことから、各展覧会をより深く鑑賞できる機会を作ることができた。 上越教育大学、長岡造形大学等との連携で、これまでとは異なるワークショップを開催することができた。
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 展覧会や作品理解を深めることを意識しながら、参加者が楽しめるワークショップを計画していく。 材料費等、参加者の実費負担も視野に入れた運営を検討していく。

問合せ先

新潟県立近代美術館 学芸課 電話：0258-28-4111

事業名

〔美術鑑賞講座〕

目的

芸術鑑賞に関する基本的な理解、専門的な知識を身に付ける。

実施主体

新潟県立万代島美術館

参加対象

一般県民

参加者数

120名(2012年12月まで)

回数

5回

日数

5日

時間

各回1時間30分

場所

NIICO プラザ会議室(新潟市中央区万代島 5-1 万代島ビル 11階)ほか

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	6月10日(日) 14:00～15:30	メアリー・ブレア 魔法の色彩	県立近代美術館学芸課 課長代理 宮下 東子
	内容・方法	「メアリー・ブレア原画展」の開催にあわせ、作家の生涯と作品について、特にディズニーでの仕事を中心に、出品作以外の画像も交えながら詳しく解説した。参加者は、28名であった。	
2	8月5日(日) 14:00～15:30	シャガールとロシア	県立近代美術館業務 課長 桐原 浩
	内容・方法	「シャガール展2012」の開催にあわせ、シャガールと出身地ロシアとの関係について時代を追いながら解説した。参加者は、42名であった。	
3	8月26日(日) 14:00～15:30	シャガールとエコール・ド・パリ	県立近代美術館 主任学芸員 今井 有
	内容・方法	「シャガール展2012」の開催にあわせ、第一次世界大戦を挟むシャガールの二度のフランス滞在期について、同時代にパリで活躍した画家たちや画壇の動向などにも触れながら紹介した。参加者は50名であった。	
4	1月27日(日) 14:00～15:30	ターナーと風景画の歴史	県立近代美術館 主任学芸員 今井 有
	内容・方法	印象派を先取りしたといわれるイギリスの巨匠、ターナーの風景画の特徴とその革新性について、西洋風景画の展開に位置付けながら紹介する。	
5	2月17日(日)	幻視の画家 ブレイクとマーティン	県立近代美術館業務 課長 桐原 浩
	内容・方法	特異な創造力に満ちた作品が後続の創作者にも影響を与えたウィリアム・ブレイク〔1767 - 1827〕。叙事的な風景を劇的な描写で幻想味の溢れるものにまで昇華させたジョン・マーティン〔178 - 1854〕。英国美術の中でも独特の位置を占める彼らの仕事を紹介する。	

成果

・開催中の展覧会の理解を深めていただく一助となった。

課題

・来館者が気軽に参加でき、より興味をもてるテーマの設定。

問合せ先

新潟県立万代島美術館(担当:今井 有) TEL:025-290-6655

事業名	〔ギャラリー・トーク〕		
目的	展覧会の出品作家の作品について理解を深める。		
実施主体	新潟県立万代島美術館		
参加対象	一般県民	参加者数	420名
回数	6回	日数	6日
		時間	各回約1時間
場所	万代島美術館展示室		
内容			

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	10月6日(土) 14:00～15:00	三瀨 末雄 ギャラリー・トーク	ミヅマアート ギャラリー 代表 三瀨 末雄 様
	内容 方法	「ジバング展—沸騰する日本の現代アート」の開催にあわせ、本展の特別協力者であるミヅマアートギャラリー代表三瀨 末雄氏が、展覧会会場を巡りながら作家や作品について語った。参加者は、50名であった。	
2	10月13日(土) 14:00～15:00	三瀬 夏之介 ギャラリー・トーク	作家 三瀬 夏之介 様
	内容 方法	「ジバング展—沸騰する日本の現代アート」の開催にあわせ、本展の出品作家である三瀬 夏之介氏が、制作の意図や作品への思いについて語った。参加者は、50名であった。	
3	10月13日(土) 14:00～15:00	鴻池 朋子 ギャラリー・トーク	作家 鴻池 朋子 様
	内容 方法	「ジバング展—沸騰する日本の現代アート」の開催にあわせ、本展の出品作家である鴻池 朋子氏が、制作の意図や作品への思いについて語った。参加者は、70名であった。	
4	11月3日(土) 14:00～15:00	0 JUN ギャラリー・トーク	作家 0 JUN 様
	内容 方法	「ジバング展—沸騰する日本の現代アート」の開催にあわせ、本展の出品作家である0 JUN氏が、制作の意図や作品への思いについて語った。参加者は、35名であった。	

回	期日・時間	テーマ	講師等
5	11月17日(土) 14:00～15:00	青山 悟 ギャラリー・トーク	作家 青山 悟 様
	内容 方法	「ジバング展—沸騰する日本の現代アート」の開催にあわせ、本展の出品作家である青山 悟氏が、制作の意図や作品への思いについて語った。参加者は、35名であった。	
6	12月1日(土) 14:00～15:00	会田 誠 ギャラリー・トーク	作家 会田 誠 様
	内容 方法	「ジバング展—沸騰する日本の現代アート」の開催にあわせ、本展の出品作家である会田 誠氏が、制作の意図や作品への思いについて語った。参加者は、180名であった。	

成果	・出品作家の言葉を直接聞いてもらうことにより、作品や制作への理解を深めてもらうことができた。
課題	・参加者数が多い場合は、会場内が混み合うことになってしまった。

問合せ先

新潟県立万代島美術館（担当：今井 有）TEL：025-290-6655

事業名	〔ギャラリー・トーク〕		
目的	展覧会の出品作家の作品について理解を深める。		
実施主体	新潟県立万代島美術館	参加者数	65名
参加対象	一般県民	回数	2回
		日数	2日
		時間	各回約1時間
場所	万代島美術館展示室		
内容			

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	10月20日(土) 14:00～15:00	教えて！現代アート	桐原 浩 TeNYアナウンサー 大平 真理子 様
	内容 法	「ジバング展—沸騰する日本の現代アート」の開催にあわせ、当館学芸員と TeNY・テレビ新潟アナウンサーが、主に現代美術の鑑賞法や作品について、展示室を巡りながら語った。参加者は、30名であった。	
2	11月10日(土) 14:00～15:00	教えて！現代アート	高 晟 峻 TeNYアナウンサー 久保田 紗也加 様
	内容 法	「ジバング展—沸騰する日本の現代アート」の開催にあわせ、当館学芸員と TeNY・テレビ新潟アナウンサーが、主に現代美術の鑑賞法や作品について、展示室を巡りながら語った。参加者は、35名であった。	

成果	・わかりにくいと敬遠されがちな現代アートについて親しんでいただく良い機会となった。
課題	・特記事項なし

問合せ先 新潟県立万代島美術館（担当：今井 有）TEL：025-290-6655

事業名

新潟県立歴史博物館 「出前講座」

目的

当館研究員の「調査・研究」活動の成果を広く県民に普及する場として、また、県民の多様なニーズに即した生涯学習の場として、県内各地で講座を開設する。

実施主体

新潟県立歴史博物館

参加対象

一般・親子

参加者数

延べ415名

回数

12回

日数

12日

時間

延べ18時間

場所

県内11会場（下記）

内容

回	期日・時間	テーマ	講師等
1	5月15日（火） 10:00～11:30	世界の中の戊辰戦争 会場：小千谷市民会館	新潟県立歴史博物館 主任研究員 田邊 幹
	内容・方法	新潟県の近代化の幕開けとなった戊辰戦争について受講者とともに多角的に考察した。	
2	7月14日（土） 13:30～15:00	越後・佐渡の妖怪 会場：佐渡島開発総合センター	新潟県立歴史博物館 主任研究員 大楽 和正
	内容・方法	新潟県には酒呑童子や河童、人魚など数多くの妖怪にまつわる伝説、奇談が伝えられている。本講座では、新潟県の人々と妖怪との関わりや、そこから見える自然観などを紹介し、併せて佐渡に伝わる妖怪や貉（むじな）についても話題が及んだ。	
3	8月22日（水） 14:00～15:30	新発田のお殿さまが使っていたサイン～花押をつくらう！ 会場：新発田市立図書館	新潟県立歴史博物館 専門研究員 山本 哲也 新潟県立歴史博物館 主任研究員 渡部 浩二
	内容・方法	花押の歴史について学んだあと、実際に新発田のお殿様の花押を作った。	
4	9月1日（土） 10:00～12:00	魚野川流域の縄文石器群-縄文時代中期を中心として- 会場：目黒邸資料館企画展示室	新潟県立歴史博物館 学芸課長 鈴木 俊成

	内容・方法	魚野川流域で発掘された縄文時代中期の縄文石器群についてお話することで石器についての知識を深めてもらうとともに、文化財の保護について理解を深めた。	
5	期日・時間	テーマ	講師等
	9月4日(火) 9:30～11:00	民俗学へのいざない 「すし」の文化史 会場：刈羽村立図書館	新潟県立歴史博物館 参事 野堀 正雄
	内容・方法	昨今、世界的な「スシ」ブームです。一方、すしネタとなる高級魚が漁獲制限などで入手が難しい中、子どもから大人まで、老若男女に広く好まれている「すし」について語った。新潟県の事例も取り混ぜ、その歴史の変遷もたどった。	
6	期日・時間	テーマ	講師等
	9月11日(火) 10:00～11:30	江戸時代の越後国絵図 会場：燕市中央公民館	新潟県立歴史博物館 主任研究員 渡部 浩二
	内容・方法	江戸時代に幕府の指示で描かれた越後国絵図の概要を紹介し、そこからみえる江戸時代の越後国の様子を探った。	
7	期日・時間	テーマ	講師等
	9月15日(土) 9:30～12:00	体験教室 作ってみよう(本格まが玉作り) 会場：田上町公民館	新潟県立歴史博物館 専門研究員 山本 哲也
	内容・方法	滑石より硬く、こわれにくい石材を使って、まが玉づくりを体験した。	
8	期日・時間	テーマ	講師等
	10月10日(水) 10月17日(木) 13:30～15:00	古文書講座 入門～応用編 会場：出雲崎中央公民館	新潟県立歴史博物館 主任研究員 田邊 幹
9	内容・方法	基本的な文字のくずしや言い回しなどについての学びを生かし、古文書に一層親しむことを目的とし、昨年度の初級編をふまえた内容を実施した。	
10	期日・時間	テーマ	講師等
	10月18日(木) 13:30～15:00	あの世をのぞく 会場：紫雲寺地区公民館	新潟県立歴史博物館 主任研究員 大楽 和正
	内容・方法	お墓、お葬式、お盆、お仏壇などの風俗を見ることで、受講者と共に私たちの生活を見つめ直した。	

	期日・時間	テーマ	講師等
11	11月10日（土） 13:30～15:00	土偶をつくろう 会場：弥彦村公民館	新潟県立歴史博物館 専門研究員 宮尾 亨
	内容・方法	新潟県内で発見されている縄文時代中期の出土品をモデルに実際に紙粘土で土偶をつくった。親子で協力して土偶をうまくつくれたか、土偶にどんなイメージを付与できたかを、みんなでディスカッションしながら考えた。	
	期日・時間	テーマ	講師等
12	11月16日（金） 10:30～12:00	中世の山城 会場：小千谷市岩沢住民センター	新潟県立歴史博物館 主任研究員 前嶋 一
	内容・方法	岩沢函山城の縁起と戦を中心に、新潟県の中世の山城についての理解を深めた。	

成 果

・今年度も広く県内10市町村からご要望いただき、計12回の出前講座実施し、400人を超える方々から参加いただいた。また、当館が設定した内容だけでなく受講者からの要望を取り入れた内容で講座を実施することができた。

課 題

・ご要望いただける範囲が広域化しているが、上越地区における実施ができていない。今後上越地区の生涯学習担当者との連携を深めて、様々な機会をとらえて出前講座をPRしていくと同時に、各地区にも働きかけて出前講座のさらなる充実に努めていきたい。

問合せ先

新潟県立歴史博物館 経営企画課（担当 鳥島 泰浩、佐藤 正樹）
TEL：0258-47-6135